

# 「時を超えて生きながらえる母校の蔵書たち」

総務担当、永田尚之が六本木高校の図書室を取材しました。以下はその取材記事と写真の数々です。

今年一番の暑さだった先日、六本木高校の図書室を見学、取材してきた。

私が学んだ校舎はすでに解体され撤去されており、昭和 61 年より今の校舎に替わっている。

そして、城南高校は平成 16 年に閉校となり、平成 17 年その跡地に六本木高校が新設された。

つまり校舎、図書室の蔵書は平成 17 年 4 月に六本木高校に移管されたということになる。

私が、六本木高校の図書室、蔵書に関心を持ったのは、昨年古本屋で高橋和己全集のうちの「日本の悪霊」をたまたま買ってからだ。

私は城南高校に在学していた時この全集を借りて読んでいた。

「今もあの全集は置いてあるのだろうか」と気になっていた。

また社会思想の解説本だったと思うが、「言論の自由は市民的自由に過ぎず、労働者の自由ではない」といったようなことが書かれていて、当時の私はその文句に憤慨したというより疑問を感じたものである。

だからこの本の内容を今も覚えているのだが、現在もその本が存在しているのか確かめたいと思った。

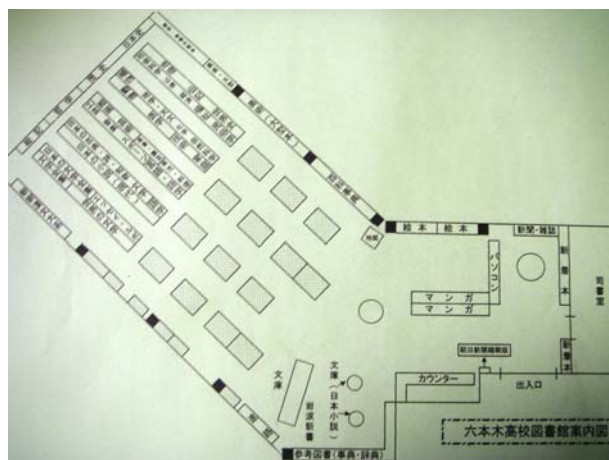
図書室のある位置はほぼ旧校舎と変わらず正門を入れて左側、3 階にある。

新校舎は主に旧校舎時代に運動部の平屋部室長屋があった土地に建てられているが、図書室のある棟はかつて旧校舎があったところに重なり 2 階には廊下側がガラス張りの職員室がある。

入り口、司書さんの部屋は中国大使館や教会の方向にあり、書架を置いてある場所は麻布十番の方向に向いている。



図書室と書架の全景



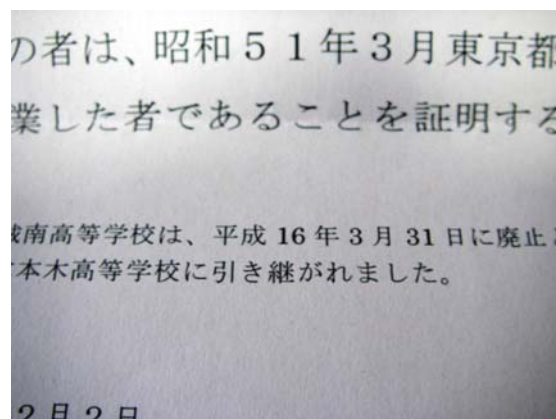
図書室のレイアウト

司書さんの部屋から向かって右側の窓からグラウンドが見え、左側の窓からは六本木ヒルズが見える。

現在の司書さんに伺ったのだが、他から移管された図書の総数は 14226 冊で、内 12228 冊は 2005 年（平成 17 年）4 月 1 日に城南高校から移管したものだ。

年月日	移管元	冊数	合計冊数
<b>2005年度</b>			
2005.04.01	城南高校	12,228	
2005.04.01	南高校	251	
2006.02.15	大田ろう学校	10	
2006.03.08	青梅東高校	19	
2006.03.13	都立短大	1,420	13,928
<b>2006年度</b>			
2007.03.20	水元高校	98	98
<b>2007年度</b>			
2007.05.18	都立図書館	139	139
<b>2008年度</b>			
2008.08.29	世田谷総合高校	61	61

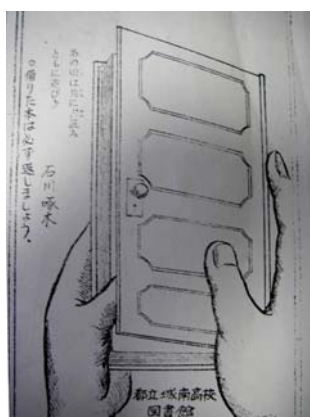
図書の移管一覧



引継ぎの表示

城南から移管された本を開くと扉には返却を促す文章が書かれイラストが描かれているコピーが貼ってある。

最初のページの裏には城南高校図書室が購入した年月日と共に 2005 年の登録番号のスタンプが押され、その右上に 2005 年に六本木高校図書室に移管したことを示すスタンプが押されている。このスタンプが押されている本は日本の名著シリーズの「本居宣長」で城南高校図書室が購入したのは昭和 46 年 10 月 28 日と押してあるので私が入学する以前からあったはずなのだが、恥ずかしいことにこの本だけでなく日本の名著シリーズ自体が記憶にない。



本の扉のイラスト



日本の名著「本居宣長」の最初のページのスタンプ

私が在学した頃とは違い、蔵書はノートパソコンで検索できる。

高橋和己の全集は見つからなかった。一冊だけ「阿修羅の思想」があった。しかし、この本は昭和 56 年 12 月 24 日に城南高校が購入したことを示すスタンプが押してあり、したがって私は見たことはない。

「言論の自由は市民的自由に過ぎない」と書かれている社会思想の本も見当たらなかった。



哲学・思想の書架

図書館の左側の窓からは在学中には存在しなかった六本木ヒルズが見え時代の流れを実感する。

右の窓から見える、いつも野球部員がローラーをリヤカーのように引っ張って固めていた土のグラウンドは、今は緑の芝生が敷かれている。



左側窓から見たヒルズとテレビ朝日



右側窓から見たグラウンド



左側窓から見たマンション



外国文学の書架



閲覧コーナー